

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット3階)

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成30年3月22日	評価結果市町村受理日	平成30年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは地域に根付いた事業所を目指しています。自治会からはお餅つき・お祭り・地藏盆・お花見・敬老会・自治会主催の消防訓練等、毎年声をかけていただき入居者様と一緒に参加させていただいております。入居者様も地域の方と顔なじみになり、普段の散歩のときなどもご近所の方や子供さんから「こんにちは、いつもお元気ですね」と声をかけてもらっています。また、地域の一人暮らしの高齢者や体の不自由な方の見守り活動にも力を入れており、自治会長や民生委員の方と連携を図っています。ホームの消防訓練には自治会の消防団の方々も参加して頂き意見をいただくなど友好な関係を気づいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調査員は3回目の訪問であったが、新たに介護理念及び介護十訓が作られていた。その十訓は「笑顔のために愛をもって…」①自分の家族にされたい介護を行います。②笑顔と心あるサービスを行います。③利用者様の尊厳とその人らしさを守ります。④明るく元気に気持ちの良い挨拶をします。⑤利用者様の言葉に耳を傾け想いに寄りそいます。⑥向上心を持ち「今日」の最善を尽くします。⑦チームワークを大切に仲間と支えあいます。⑧あらゆる事故ゼロを目指します。⑨喜びを感じる食事の提供に努めます。⑩安心・安全・気持ちの良い介助を目指します。この十訓による支援の現場を短時間の訪問調査で感じる事ができた。2階にあるボディビルトレーニングジム(別法人)に利用者が椅子に座って輪になり、ジムのインストラクターによるメニューに従ったトレーニング風景も拝見した。生き生きと体を動かす姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念と介護十訓を玄関に掲げており、実践につなげていける様に、職員で理念を共有し、確認して仕事を行う様に務めています。	新たに作成した介護の心得「介護十訓」(あなたの笑顔が見たいから・・笑顔のために愛をもって・・)には職員に期待する介護の心が十項目にわたって表現されており、職員に徹底するように努めている。	この介護十訓を1階の玄関だけでなく各フロアに掲示したり、ホーム便り「こんにちはFMCグループホームです」で紹介したりしては如何。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に招待を受け参加したり、合同で消防訓練を行っています。また、日常的に挨拶を行い、顔見知りの関係になってきています。	運営推進会議には町会長や老人会の役員に出席をお願いして、地域行事の計画を聞き、催しものに参加したり、地域の消防訓練にも参加し、近隣への散歩の時には挨拶を交わすなど地域との交流関係が少しずつ前進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加時や、運営推進会議の際等に、認知症やグループホームについてのお話や説明をさせて頂き、理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、入居者様・ご家族・地域の方々からの意見を参考に、より良いケアを実践し、サービスを向上出来る様に務めています。	町内会長、老人会役員、地域包括支援センター担当者が出席した会議では、事業所運営の状況、利用者の暮らしぶり、認知症に関する情報提供を行い、外部からの出席者の意見を事業所の運営やケアに活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者の方もおられ、市のカギ預かり事業にも参加しており、市町村の担当の方と密に連絡を取り、協力関係を築ける様に務めています。	市に持ち込まれる老人介護に関する緊急処置への対応や、社会的扶助に関する利用者個々の事例への対応について、常に行政当局と連携ができる様に協力関係を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、拘束しないケアを理解し、実施に努めています。入居者様の安全を守る為、一部の居室の窓とエレベーターの施錠は行っています。	身体拘束防止に関する研修を定期的開催している。各階のエレベーターは施錠されているが拘束感は感じられない。利用者個々のADL状況に応じて身体的・精神的拘束にならない介助方法をリーダーが中心となって職員で話し合って選択している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を実施し、フロア会議の際等にも、定期的に確認を行い、話し合いを行っています。職員間でも、言葉使いや介助に対して、声掛けを行い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部・外部の研修で、権利擁護の理解に努め、必要性のある入居者様には、地域包括センターや社会福祉協議会とも連携を取りながら、支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書・看取り契約書等は、不安や疑問点を尋ね、理解・納得をして頂けるまで、わかりやすく丁寧に説明を行う様に務めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が、意見や要望を言いやすい環境作りに取り組み、頂いた意見は、職員間で共有する様に務めています。また、運営推進会議時等に、外部者へ表し、運営に反映出来るように努めています。	家族の訪問時には本人の健康状態や直近の暮らしぶりを詳しく報告している。毎月ホーム便り「こんにちはFMCグループホームです」を発行して、行事写真や誕生日の利用者紹介、次月の予定などをスナップ写真を含めて掲載し家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が、様々な意見や提案等を、話しやすい環境になる様に心掛けており、会議時等にも、意見を聞く機会を設け、反映出来る様に、努めています。	館長・リーダー・職員間の良好なチームワークが維持され働きやすい職場環境づくりが行われている。全く介護業務無経験である職員が、勤務と資格取得を両立させて、事業所の理解・協力により介護職として成長して来た職員に面談出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持って働ける様な環境作りに努め、定期的に館長に報告を行う様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し、出来るまで丁寧に指導を行う様に務めています。また、毎月勉強会を実施したり、外部研修に参加する事で、スキルの向上が出来る様に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し、同業者の方々と交流を行う事で、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の困っている事や、不安・要望等に耳を傾け、安心して過ごして頂ける様な関係を築ける様に、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の様の困っている事や、不安・要望に耳を傾け、話をしやすい環境を作り、安心して入居者様を預けて頂ける様な関係を築ける様に、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を見極め、可能な範囲で対応を行っています。また、要望に応じて、その都度対応を行う様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や、身体の状態を考慮し、それぞれに合ったお手伝い(洗濯物たみ・食器拭き)等をして頂き、共に生活している事を実感し、関係を築いて頂ける様に、努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、日々の様子の報告や説明を行っています。また、入居者様とご家族様の絆を大切に、一緒に入居者様を支えて頂ける様な関係を築ける様に、努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がこれまで大切にしてきた、馴染みの人や場所に関して、可能な範囲で、関係が途切れない様に、支援を行える様に、努めています。	入所の時点で本人の過去の仕事の関係や近所での交流関係を家族にヒヤリングして、入居後にも関係や交流が継続できるように努めている。新聞購読や知人との面会、電話、などの支援をするように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に、職員が関係を取り持ち、入居者様同士で、関わりを持ち、支えあえる様な支援を行える様に、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了されたご家族様にも、お会いした際に、挨拶やお話をさせて頂き、相談・ご要望に応じて、しっかりと支援を行える様に、努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活習慣の把握に努め、可能な範囲で希望を受け入れる様に、努めています。どうしても困難な場合は、ご本人に説明を行い、代替え案を提供したり、納得して頂ける様に、検討・実施をしています。	本人の趣味や嗜好、また生活歴を把握して、入居後の本人の希望する暮らし方を家族を含めて相談し対応するようにしている。入居後の関りの中から本人の思いを推測して、職員間で話し合っって支援方法をケアプランにも反映させるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から、情報収集を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境・これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態に応じて、個々にあった日課や、レクレーションを実施して頂いたり、体調を考慮して過ごして頂ける様に、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロア会議とカンファレンスを実施し、より良く過ごす為の課題や、ケアのあり方について話し合いを行い、ご本人・ご家族様の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成する様に、努めています。	フロア毎に毎月の会議にてカンファレンスの時間を多く取って、利用者毎の最近の状態を確認し、家族の意向、かかりつけ医の意見を参考にして、介護計画の見直しに繋げている。特に職員間の情報共有を徹底するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残し、職員間で情報を共有しながら、会議時や、その都度話し合いを行い、より良いケアを実践し、介護計画の見直しに活かせる様に、努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階にジムが併設されており、火曜日と木曜日にリハビリ・スポーツレクを楽しまれています。また、希望者や必要な方に合わせて、往診のマッサージを受けて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加させて頂いたり、近くのコンビニやスーパーに買い物に行ったり、公園などに散歩に行く機会を作り、楽しんで生活して頂ける様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の病院から、月に2回の内科の集団往診と個人往診があります。歯科は、毎週月曜日と同曜日に、往診があります。本人様やご家族様の意思を尊重し、適切な医療を提携できる様に務め、特変時はすぐに、Drに連絡を行い、対応して頂いています。	毎月、集団往診と個人往診の2回をかかりつけ医にお願いしている。家族の意向に沿った専門医科での診療にも協力している。かかりつけ医の選定にあたっては家族及び本人の意向に従っている。看護師とはFAXを利用して連絡合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、日々の状態の報告、相談をこまめに行い、支持のもとに対応を行う事で、適切な看護や受診が行える様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療ができる様に、しっかりと情報提供を行い、退院時には、サマリーや看護情報を頂く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りについての説明を行い、必要な段階になった際や気持ちの変化があった際に、意向を踏まえ、ご家族様・主治医・看護師・職員で話し合いを行い、全体で方針を共有し、支援する様に努めています。	入所の時点で、重度化や終末期についての事業所の対応姿勢・方針を家族に説明して同意を得ている。医師の意見を聞き、家族が希望する場合は看取り契約を交わして、事業所としての体制(シフト)を構築して本人及び家族の意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、定期的に勉強会を行い、会議時等に、初期対応の確認を行う様にしています。また、看護師に指導を頂いたり、マニュアルを確認する様に、指導・実践を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的実施しており、全職員が避難誘導について、確認出来る様に、マニュアルを頭に入れ、実践できるように心掛けています。また、地域との協力体制を築く為、合同での消防訓練を実施したりもしています。	地域の防災訓練にも参加して、防災に関する地域との協力体制の維持に努めている。通報設備、消火設備、避難経路の確保・点検の整備状況は問題ない。寝屋川消防署の協力・指導の下に、5階建て建物全体としての防災訓練を定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意し、入居者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる事の無い様に、尊敬の意を持って、言葉かけや対応を行う様に努めています。	利用者の誇りや人格、及びこれまで生きてきた人生経験を尊び、言葉を選びながら利用者に話しかける様に努めている。入浴支援やトイレ介助の際には羞恥心への配慮を忘れないようにしている。個人情報の保護は職員に徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、無理に何かをして頂くのではなく、入居者様の意思・希望のもとで行動して頂き、自己決定して頂ける様な働きかけや対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、入居者様の体調を考慮し、それぞれに合ったペースを大切に、可能な範囲で希望にそった支援を行える様に、努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回、訪問カットの方に来て頂き、カットをして頂いています。また、日々の身だしなみに注意し、外出時や行事の際には、おしゃれ着を着て頂いたり等の支援を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後にテーブルを拭いて頂いたり、食器を拭くのを手伝って頂いたりしています。また、行事の際は、重箱を使用する等、いつもと違う雰囲気を感じ、それぞれの好みや力を活かしながら、食事が楽しみなものになる様に努めています。	利用者の残存能力を活かして、食事作りの準備や片づけなどの家事作業への参加を促している。誕生日などの行事には利用者の好みのメニューに配慮して、食事を楽しんでもらっている。職員も同じ料理を少し時間はずれるが喫食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の把握をしっかりと行う様にしています。また、それぞれの状態や体調・習慣に応じた対応・支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週月曜日と土曜日に歯科往診があり、口腔ケアやチェックを実施して頂いています。拒否がみられる方もいる為、毎食後に全員の口腔ケアを実施する事は出来ませんが、可能な限り、個々の状態に応じた口腔ケアを行う様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、定期的にトイレ誘導を実施し、個々に合ったパターンや習慣を把握し、それぞれに合った間隔や、その日の状態を考慮し、声掛けや誘導を実施しています。	個人個人の排泄パターンを記録を基に把握して、事前の声掛け・誘導を行って、日中はトイレでの排泄をするように支援している。食材や水分補給にも配慮してリズムの良い排泄習慣の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、便秘傾向の方には、ヨーグルトや食物繊維の多い野菜を摂取して頂いたり、水分を多めに促したりと、個々に応じた予防と対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施しており、体調や希望に合わせて、シャワー浴や清拭・足浴を実施しています。また、ゆっくりと入浴して頂ける様に、個々に添った支援に努めています。	入居者の体調やペースを尊重しながら週に2回の入浴ができる様にして、時間をかけてゆっくりと入浴してもらえるように支援している。拒否がある場合は足浴や清拭により清潔維持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は、それぞれの習慣に応じて、無理に寝て頂くのではなく、眠くなるまでフロアで過ごして頂いたりしています。また、体調の観察をしっかりと行い、体調不良時は、早めに休んで頂く等の対応を実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容や用量について、処方箋を確認する様に、指導を行っています。また、服薬ミスが無い様に注意しながら、服薬介助を行い、症状の効果や変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんによる歌や書道等のレクを定期的に行い、楽しんで頂ける様に、取り組んでいます。また、普段も一緒に、おやつ作りや工作等をしたり、楽しみと役割を持って頂ける様な支援を行える様に、努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期に、公園や神社に散歩に出かけたり、近くのコンビニやスーパーに買い物に、一緒に行ったりしています。また、定期的に、ご家族と散歩に出かけられる方もおられます。	本人の体調や天候を考慮して、近所の初町公園や神社、コンビニへの買い物外出も楽しみである。2階にあるスポーツジムで体を動かす時間も作っている。花見や初詣など季節を感じる行事も実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、職員が行っています。本人様の要望や必要な物があれば、ご家族に相談し、物品を購入したり、一緒に買い物に行ったりしています。その際に、自身で支払いをして頂く事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話して頂く様にしています。また、手紙のやり取りの支援等にも、取り組んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、行事の写真や、入居者様と一緒に作った季節の作品を飾っています。また、快適に過ごして頂ける様に、家具の位置を工夫し、くつろげるスペースを作れる様に努めています。	日中は利用者がリビングで過ごしやすようにダイニングチェアやソファやテレビの位置に工夫がされている。窓際には植物を配置して、道の向こう側には府立寝屋川高校のテニスコートが見える。厨房が横にあり調理の音や匂いなど五感を刺激するレイアウトとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごして頂ける様に、ソファ等を設置しています。特に席は決めておらず、好きな場所で、気の合った方と過ごして頂ける様に、工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を持参されたり、使い慣れた物を居室に置き、自分の部屋である事を認識して頂き、居心地良く過ごして頂ける様な、工夫に努めています。	家族の協力を得て、在宅生活で使用していた家具類を持ち込んで貰っている。昔の写真や行事での本人の写真を部屋に飾って、利用者毎に個性のある部屋作りを職員は心がけている。入り口は自分の部屋が認識しやすいように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の扉には、ご自身の居室が認識できる様な表示を行ったり、トイレや浴室も認識して頂ける様に、安全で自立した生活を送って頂ける様に、工夫を行う様に努めています。		